Classic Series

Klystron 500 head

Track36,37

THE BASS INSTRUMENTS 2

Ashdown Engineering

最上位機種として新登場したクラシック・シリーズのクライストロン500ヘッドは、同社の特徴的な機能を網羅した出力500Wのアンプ・ヘッドだ。ソリッドステートに加え真空管のプリアンプ・セクションを搭載。バルブ・ドライブ・ツマミで真空管のサウンドをプラスすることで存在感のある低音が楽しめる。また、パンチのあるアタック感を付け加えたり、過剰な入力によるクリップを抑えるなど、幅広い使い方を実現するコンプレッサーを新たに装備。さらに、アッシュダウンならではの機能と言える、1オクターヴ下のハーモニーをブレンドするサブ・ハーモニクス・サーキットも備え、重量感溢れる音作りが行なえる。EQの中心となるベース、ミドル、トレブルはダイヤル式のツマミとし、その間の帯域をグラフィックEQのようなスライダーで補足するというコントローラーは、感覚的で素早いセッティングと同時に緻密な調整も両立する、優れた操作性を誇る。

front & rear view

全体的にクラシックな雰囲気が漂う前面パネル。これまでのラインナップでもおなじみのスライダーを取り入れたトーン・コントロールやVUメーターなどが印象的だ。コンプレッサーなどの機能も充実。

ソリッドステートのサウンドに、真空管特有の歪み成分をブレンドできるバルブ・ドライブ。ツマミの調整によって、温かみのある音から深い歪みまでを作り出す。

背面の様子。スピコンに対応するスピーカー・アウトがふたつに、エフェクトのセンド／リターンやフットスイッチを接続する端子など充実した入出力を装備するが、シンプルでわかりやすい構成となっている。

3バンドのトーン・コントロールに加え、180Hz、340Hz、1.3kHz、2.6kHzの周波数帯をターゲットにしたスライダーも装備。かゆいところに手の届くような音作りが可能だ。

SPECIFICATIONS
●出力：500W RMS (4Ω) ●入出力：インプット、スピーカー・アウト×2、チューナー・アウト、ライン・アウト、ライン・イン、 DIアウト、FXセンド／リターン、フットスイッチ●コントロール：インプット、プッシュ・フラット／シェイプ・スイッチ、バッシヴ／アクティヴ切り替えスイッチ、バルブ・ドライブ、バルブ・ドライブ・イン／アウト・スイッチ、EQイン／アウト・スイッチ、コンプレッション・レベル、コンプレッション・イン／アウト・スイッチ、ベース(45Hz)、ミドル(660Hz)、トレブル(5kHz)、スライダー(180Hz、340Hz、1.3kHz、2.6kHz)、サブ・ハーモニクス・イン／アウト・スイッチ、サブ・ハーモニクス・レベル、アウトプット・ミュート・スイッチ、DIプリ／ポストEQスイッチ、アウトプット●サイズ：470 (W) ×310 (H) ×240 (D) mm ●重量：16kg●価格：￥236,250

存在感抜群の低音を生み出す ブランド最高峰のモデル

レトロな感覚と豊富なアイディアが融合した アッシュダウンの歩み

イギリスが生んだ新世代のベース・アンプ・ブランドとして急成長を遂げるアッシュダウン・エンジニアリング。この会社は97年にマーク・グッディという人物によって、エセックス州チェルムスフォードにて設立された。マークは80年代からトレース・エリオットで働いてきたキャリアを持つ人物で、トレース・エリオットを離れた彼は、昔からの友人らとともにアッシュダウンを興した。その際、ブランド名はマークの夫人の旧姓から取られたという。学生時代からベースをプレイしていたマークは、それまでに培ったベース・アンプに関するノウハウを注ぎ込み、第1弾製品であるABMシリーズを発表。ABMはソリッドステートとチューブの2系統のプリ部を装備し、自由にブレンドできる点が特徴で、サウンド的にもハイファイなソリッドステート・アンプと、ヴィンテージ・ライクなチューブ・アンプの優れた点を併せ持つキャラクターを実現していた。デザイン面においても、ブランドの象徴ともなった、古い音響機器のような針式のVUメーター、そして50年代のブリティッシュ・スポーツカーを彷彿させるロゴを配し、モダンな機能性の高さを備えながらも、クラシカルなムードを漂わせていた。そういったサウンドとルックスに加え、トランジスタ・アンプ特有の操作性の良さがジョン・エントウィッスルやロジャー・ウォーターズ、U2のアダム・クレイトンなど、幅広いジャンルのベーシストたちを魅了した。その後もシンプルな機能性を追求したMAGシリーズやエレクトリック・ブルー・シリーズ、コンパクトなオール・アクセス・プラクティス・アンプなど、さまざまなニーズに応じてラインナップを拡張。07年にはベース専用のフロア・タイプ・エフェクターも発表した。そして08年に入り、新たなフラッグシップ・モデルとなるクラシック・シリーズを皮切りにニュー・モデルが続々と投入され、注目を浴びている。

Sato's Impression

柔らかい音とクリーン・トーンが素晴らしく、僕が想像していたとおりのサウンドです。

まず、僕がアッシュダウンのアンプに抱いている"柔らかい音"というイメージにおいて、期待どおりのサウンドです。さらに、まるで足下のモニターから返したような、クリーンなサウンドも素晴らしいですね。僕の場合、低域や高域ばかりが強調されたサウンドはあまり好みではないんです。その点、このアンプは素直に楽器の個性が出てくるし、トーンをフラットにした状態でこそ、持ち味が出ているように思います。

おすすめセッティング　Track37（Track36はフラットなセッティング）

このアンプの持つ"温かい音"という持ち味を生かしたセッティングを考えてみました。バルブ・ドライブをオンにして若干歪みを加えることで、よりヴィンテージのアンプに近づけることができます。

最上位機種のクライストロン500ヘッドの上面にはイギリスの国旗を模したエンブレムが打ち付けられる。こういった点からも、自らのルーツを大切にしたポリシーを感じる。